

年 組 名前：

旧日本軍の零式三座水上偵察機(パラオ)や戦艦「長門」(マーシャル諸島)など、水中写真家の戸村裕行さん(39)は増玉県は世界各地の海底に眠る太平洋戦争の爪痕を10年以上にわたり撮影し、その数は150点近くに上る。今夏で戦後76年。「いつかは朽ちて無くなってしまふかもしれない。記録にとどめ、平和について考えるきっかけにしたい」と話す。

きっかけは2010年。趣味のダイビングで潜った沖縄の海で、旧日本軍の特攻を受けた米軍艦「エモンズ」の残骸を見た。「なぜここに」と興味を持ち、戦争の歴史を学び始めた。以来、インドネシアやパプアニューギニアなどの激戦地を巡っては、水中の「戦争遺産」を撮り続ける。危険と隣り合わせの水深60〜70メートルの海底に潜ったこと

### 海底の戦争遺産 記録に残す

#### 戸村裕行さん 世界各地で撮影10年

も。普段目に見えない光景が多くの人の関心を集めてきた。輸送船「鬼怒川丸」が眠るソロモン諸島では開発が進み、数年前と比べ海の透明度が格段に下がった。エ

モンズも今年に入って低気圧の影響で対空機銃が崩れ、「一度出会った光景が、次にまた会えるか分からな」と経年劣化への危惧も募る。かつては貨客船だった特

設潜水母艦「平安丸」(ミクロネシア連邦)には鉛筆やカレンダー、書籍など、当時の暮らしが分かる「遺品」もあった。船内で遺骨が見つかることもあり、戦没者の遺骨収集事業を手掛ける厚生労働省への情報提供も今年から始めた。

戸村さんは「犠牲者が眠る海に潜り撮影する以上、常に謙虚でいなければならぬ。そこになぜ船舶や航空機が残っているのかや、亡くなった方の思いまで伝わるように撮り続けていきたい」と話す。

7月25日まで、福岡県筑前町の大刀洗平和記念館で戸村さんの写真展「群青の追憶 海底に眠る戦争遺産を追う」が開かれている。問い合わせは同館、電話0946(23)1237。

#### 問1

戸村裕行さんはなぜ、世界各地の海底に眠る太平洋戦争の戦争遺産を撮影し続けているのですか。

.....

.....

.....

.....

.....

#### 問2

(2021年6月11日付 山梨日日新聞13面)

戸村さんが、これまで出会った戦争遺産名と場所を3つ挙げてください。

戦争遺産名「	」	場所「	」
「	」	「	」
「	」	「	」

#### 問3

終戦から今年76年。その間、日本は戦争を行いませんでしたが、世界各地では今も戦闘や武力紛争などが続いています。戦争に対するあなたの考えを書き、できればクラスで話し合ってみましょう。

.....

.....